

わずから5ミリの厚さで床からの底冷えを防ぐ。災害や帰宅困難時に避難所などに敷く断熱シートで、商品名は「ゆうさいくんの籠城シート」。細川幽齋が1600年、劣勢の中で田辺城(舞鶴城)に立てこもり、守り抜いたことにちなむ。

「災害時に大切な命と体を守りたい」と、開発と販売をしている「DIY STYLE」(舞鶴市喜多)の森本隆社長(42)は力を込める。2005年に創業、住宅リフォーム用建材をインターネット販売している社員5人の小さな会社だ。

「籠城シート」開発のきっかけは、東日本大震災後の冬に市内で行われた避難訓練。体育館で足元からの冷えに「防寒できないと、避難生活がままならないはず」。舞鶴工業高等専門学校と開発していた防音シ

北部
発

こんなの作ってます



災害用断熱シート(舞鶴市)

トから発想を広げ、断熱シートの開発に取り組んだ。かけられ、製品への自信もウレタン素材で断熱性能を上げ、備蓄する際にかさばらないよう薄くした。販売を開始した13年、出展した仙台市での震災対策技術展で被災者から「夜は寒くて眠れなかった。あのとき、

(上口祐也)

避難所生活冬でも暖かく

災害用断熱シートの販売先は、個人や事業所が多い。地域の集会所に備蓄したり、従業員の帰宅困難時に準備したりしているといい、森本さんは地域や事業所にも災害に備える意識が広がっている、と感じている。

「こぼれ話」

災害用断熱シートと森本社長。うつぶせで寝てもまぶしくないよう、黒色にしている
(舞鶴市喜多・「DIY STYLE」)

